

あけくまのたより



発行責任者

原田 尚之

【校長室より】

『真実を見極める力』

～関心を持つことが判断力を磨き人の幸せに繋がる～

寒中お見舞い申し上げます。

平成29年が始まりましたが、3年生にとっては春まだ遠き状況です。センター試験受験、そしてその結果を受けての2次試験出願と緊張の日々が続いています。現役生にとってはこの1ヶ月が飛躍的に伸張する期間です。今はひたすら2次試験、私立大学試験、准看試験等を迎えるその瞬間まで、自分を信じて、先生方を信じて、必死に努力してほしいと思います。また、1、2年生には、3学期は次の学年の0学期と位置づけ中長期的な目標を立て、計画的に努力してほしいと思います。

さて、今月は、東京大学名誉教授の姜尚中（カンサンジュン）さんが、長崎のある県立高校で「教育とメディア」と題した講演の内容の一部を紹介する形で私の思いをお伝えしたいと思います。

現在、スマートフォンなど情報端末を持っていれば、世界で起きている膨大な情報を知ることが出来る。（略）

事実が事実でないか、自分で判断することは難しい。私たちの周りに情報は多く存在するし、スマホなどからあらゆる情報が手に入る。だが、何が真実なのか分からない。世界で起きている出来事が本当かどうか確かめるすべを持っていない。出所が分からない情報が徘徊しており、私たちはそれを「真実」と思う場合がある。（略）

本などを読み、何を考えているかで真実が見極められるかどうかの判断力が備わってくる。本当に賢い人は判断力を磨ける人で、判断力がある人が幸せな人といえる。判断力を磨くために必要なのは関心を持つこと。大切な情報を得るために無関心にならないことだ。まず、自分の周りや地域などに関心を持つといい。関心があるから悲しみ、怒りもあるが、生きがい、安らぎもある。「私には関係ない」と思うことは人間にとって最大の病気だ。（略）

最近、ネットなどで情報が氾濫する中、個人的な見解が目立ち、社会的視点が乏しく、何を信用していいのかわからない場合があります。そのような世界で、「関心を持つことが判断力を磨き人の幸せに繋がる」と姜尚中（カンサンジュン）さんは言われています。また、その関心の度合いが広ければ広いほど、深ければ深いほど判断力も高まると思います。

では、「物事に関心を持つ」ためには何が必要でしょうか？

「関心を持つ」という意識を向上させる事は大切だと思いますが、それだけでは困難であり、たとえ関心を持てたとしても「広くて深い関心」とはならないでしょう。やはり、物事に対する「基礎的な知識」が必要だと思います。

学校で生徒達は、将来社会人として「広くて深い関心」を持てるよう、多くの分野の「基礎的な知識」を学んでいます。これだけ広い分野を学ぶ機会は高校まででしょう。生徒の中には苦手な分野もあるかもしれませんが、できるだけ広くて深い「基礎的な知識」を習得させることが、将来、「生徒の判断力を磨き、生徒自身や世界の幸せに繋がる」と改めて思いました。

以上のお話をさせていただきました。

今年も教職員一同、五島高校の生徒の指導に邁進いたします。今後ともよろしくお願いいたします。

センター出陣式 全力を尽くせ (第3学年主任 瀧上透)

1月13日(金)に本校の軽スポーツ場でセンター出陣式がありました。まず校長先生から「これまで一生懸命にやってきた自分を褒めよう。この受験本番を迎えることができたことに感謝し、自分を信じて最後までやり抜こう」という言葉があり、本番に向けたアドバイスをいただきました。次に生徒代表の3年5組堀本君が、「これまで支えてくれた家族、先生方、友人など全ての人たちに感謝し、センター試験では全力を尽くそう」と力強く決意表明をしてくれました。最後に各教科の先生方から激励がありました。生徒達の緊張をほぐしながらも、試験に向けてのやる気を掻き立てる言葉ばかりでした。

出陣式に際し、1・2年生が心を込めて作ってくれた折鶴やメッセージをはじめ、各部活動、これまで生徒達に関わった先生方から多くのメッセージをいただき、3年生はとても嬉しそうに見入っていました。応援していただいた皆さん、本当にありがとうございました。



五高生の底力 個別試験に向けて (進路指導主任 阿比留憲一)



センター試験も終わり、特別編成授業が始まりました。2月25日の国公立大学の前期試験、3月8日の中期試験、3月11日の後期試験、または私立大学の試験等に向けてそれぞれに頑張っているものと思います。試験場で立ち向かうのは一人ひとりの力ですが、そこにたどり着くのは五島高校に集う全員の力です。すでに進路が決まっている人も、全く違う進路を歩もうとする人も、互いに高めあって、それぞれの進路に役立てましょう。最後の最後までやりきる力…それこそが五高生の強みです。見せろ!五高の底力!!

打たれる杭になるために ～ 2年学習交流会参加者の感想 ～

島外の高校生と学習時間や学習方法を話し合うことができ、多くの刺激を受けました。将来の夢や目的、芯が強い人は自分に自信を持っているように見え、その方が無駄なことを省いて行動することができると思うので、早く将来の夢、目的などを見つけて限られた時間を有効に使えるようにしていきたいです。今回のたくさんの出会いを忘れずに、周りには多くの仲間、ライバルがいると考え、これから



はもっと勉強に対して前向きに取り組めるようにしたいです。

私が五島高校を引っ張っていけるようにこれからの生活を送っていきたいと思います。レベルの高い同学年の生徒と授業を受けることにより、負けては行かないという意識が前より強くなり、自分のことを見つめる良い機会となりました。「出る杭は打たれない」という言葉が印象に残っています。私は今回の学習会で出る杭になることはできませんでしたが、社会に出て自立するためには出る杭になることはとても大切だと思います。これからは積極的に活動していきたいです。



3年 スポーツコース

乗馬実習

最初は歩くことから始め、慣れてくると速歩(はやあし)で馬を走らせます。スピードが上がると揺れが一気に大きくなり、生徒は苦勞しながらも目を輝かせて意欲的に取り組んでいました。また、想像以上に下半身の筋力を使うようで、日頃運動している生徒達でも実習後は内ももが疲労感に襲われているようでした。



ゴルフ実習

全員がゴルフクラブを握ること自体が初めてであり、最初はまっすぐ打球を飛ばすことさえ苦勞していました。しかし練習場での練習を重ねる中で、しっかりとした打球を飛ばすことができました。その後は、最終実習として実際のゴルフコースを、自分たちでスコアをつけながらラウンドすることができました。想像以上に難しく、思うようなスコアで回ることができませんでしたが、時折出るスーパーショットに生徒たちは一喜一憂し、ゴルフの魅力に触れることができた様子でした。



私たち柔道部は、引地先生・原口先生のご指導のもと、「県大会上位入賞」、「全国・九州大会出場」を目標に日々練習に励んでいます。今年度は、数名の部員が個人で上位に入賞し、九州大会にも出場することができました。また、女子団体も準優勝をするなど輝かしい成績を残すことができました。高総体では、男女アベックでの団体上位入賞ができるように、部員全員で切磋琢磨しながら練習していきたいと思ひます。生活面でも授業態度や容儀などを見直し、落ち着いた生活を送れるようにしていきたいと思ひます。【主将 横枕拓八】

柔道部



長崎県高校柔道選手権(1月14日～15日)

～試合結果～

- ≪団体≫男子:ベスト8 女子:準優勝
- ≪個人≫男子60kg級 馬崎(3位) 男子66kg級 阿比留(3位)
- 女子48kg級 清川(3位) 女子52kg級 眞弓(3位)
- 女子63kg級 岡村(2位) 女子無差別級 深松(3位)

サッカー部は、顧問の七條先生、本多先生の御指導のもと、高総体ベスト4を目標に毎日の練習に取り組んでいます。現在、部員が15名しかいないため、部員が一人でも休むと、練習内容を修正したり、試合の時は、チーム戦術やポジションを変更したりしています。大変な部分も沢山ありますが、一人一人が多くの経験を積むことができているので、他のチームよりも成長できていると思ひます。今後も、15人全員で練習に励みます。【主将 川端 歩】

サッカー部



剣道部



私たち剣道部は、顧問の川内先生、堤先生のもと、インターハイ出場を目指して日々の稽古に取り組んでいます。今年度は、女子が団体で地区2位、個人では1年生の女子が地区の学年別大会で3位入賞を果たしました。しかし、県大会での上位入賞は果たせていません。個々の課題に真剣に向き合い県内で上位の実力を身につけるとともに、インターハイ出場という目標を達成できるよう、部員同士声を掛け合って厳しい稽古を乗り越えていきます。【主将 白濱 翔】

百人一首かるた部



私たち百人一首かるた部は、1年間の中で全国大会や県大会、昇級大会、また、五高の代表として下五島地区高等学校百人一首大会などたくさんの試合に出場しました。チーム、そして個人の力をレベルアップさせるため、試合形式で練習をしたり、試合を想定した札の払い方などをお互い声をかけあいながら練習に励んでいます。目標は全員が昇段すること、来年度に行われる全国大会に出場することです。今までの伝統を後輩達に受け継ぐためにも、マナーはもちろんのこと、技術やメンタル面を大切に部活動に励みたいと思ひます。【部長 安田綾奈】

下五島百人一首大会(1月12日)

優勝(12連覇達成!)